

Panamá

[パナマ]

写真・文=さかぐちとおる(著述家)

先住民と都市の風



自給自足に近い生活をしている
エンペラ族。木とヤシの葉で築いた
住居に複数の家族が暮らす



旧市街の歴史地区から見た高層ビル街。2010年以降、ビル建設が急増している

南北アメリカ大陸の幅が最も細く
なっている地峡に位置するパナマ。
運河に代表されるように流通経済が
盛んで、首都のパナマ市は世界各国
の銀行が集まる金融都市として機能
し、その海岸沿いに建ち並ぶ高層ビ
ル街は香港やドバイを彷彿させる。
2004年以降は、年率6〜7%の
高い経済成長を遂げている。観光業
も盛んで、コロンIAL調の歴史都市、
要塞跡、熱帯雨林での自然探索、先
住民居住区への訪問の人気の高い。
国の総人口約386万人のうち、

先住民は7%ほどを占める。マヤや
インカのような古代文明は繁栄しな
かったが、先住民は狩猟や漁、農耕
など、原始的な生活を営んできた。
今日のパナマでは、主に、東部の密
林地帯にエンベラ族、西部の山岳地
帯にノベグレ族、カリブ海沿岸や
島々にクナ族が暮らしている。彼ら
の多くはパナマ政府から自治権を得
て、独自の生活を営んできた。
とはいえども、自給自足の生活だけ
では成り立たない。例えば、クナ族
は布を縫い合わせたモラという民芸

品を作り、都市部へ売りに行ってい
る。首都の市街地で、伝統衣装を着
たクナ族の女性を見掛けることも少
なくない。また、彼らが居住するカ
リブ海のサン・ブラス諸島には、民
宿のような宿泊施設が数多くあり、
観光客を受け入れている。私がサン
・ブラス諸島を訪れたときは、シユノ
ーケリングができる無人島までツア
ーボートで連れて行ってくれたほか、
彼らの住居を見学させてくれた。ク
ナ族は必要最低限の物資で、質素な
生活をしているようだ。



世界遺産に登録されたパナマ歴史地区の中心に建つカテドラル。近年の治安対策が功を奏して観光客が増えてきた

地球ギャラリー vol.88



都市部の公園で遊ぶ子どもたちは明るく、陽気な表情を見せてくれる



歴史地区で絵画を描く男性。コロンIAL調の街並みを題材にした作品は観光客に人気だ



市内の民家で弁当を売る女性。歴史地区にも庶民生活の光景が見られる



伝統衣装を着て首都パナマ市の街中を歩くクナ族の女性。民芸品の販売などのため、カリブ海の島々から出稼ぎに来ている



羽ばたきながら花の蜜を吸うハチドリ。体長10cmほどで熱帯雨林に生息する



太鼓を演奏して訪問客を出迎えるエンペラ族。男性が演奏して女性が踊るのが一般的だ

熱帯の地に暮らす彼らは裸に近い格好をしている。原始的に見えるが、子どもたちの発育状態も悪くはない



密林での生活方法を伝授したという。これが後にベトナム戦争に生かされたそう。つまりエンペラ族は、彼らの意図ではないとしても、間接的にベトナム戦争に協力したことになる。

また、近年は、麻薬との関係も指摘されているようだ。コロンビアと国境を接するパナマは、コカインの密輸経路になっているといわれる。コロンビアの麻薬組織がパナマの先住民に協力させて、自治区を経路として利用しているとのことだった。パナマの治安当局は、基本的に先住民

自治区を捜索できないので、それを使う悪用しているというわけだ。当然ながら、コロンビアの麻薬組織から先住民へ闇の協力費が支払われていることだろう。

パナマの先住民の多くは、都市部の経済発展とは対照的に、大地に根差した生活を営んできた。麻薬密輸に関わる者もいるのは事実だが、それはごく一部の問題にすぎない。今後もパナマの先住民たちには、安泰な生活を自ら守り続けてほしいものだ。



観光客向けに伝統舞踊を披露するエンペラ族。女性たちによる踊りが受け継がれている

一方、密林地帯に暮らすエンペラ族の生活はとても原始的だ。パナマ運河に注ぐチャグレス川の上流域に彼らの集落があり、首都から日帰りツアーで訪問することもできる。ここは熱帯性の気候なので、エンペラ族の装いは局部を布で覆う程度の裸に近い状態だった。雨をしのぐ屋根があるだけの住居で、電気や水道はない。

エンペラ族は一見、自給自足の生活をしているようだが、実はツアー料金の一部が彼らに支払われている。つまり、この集落では原始的な生活ぶりを見せることによって、観光収入を得ているというわけだ。

帰り道にツアーガイドから衝撃的な話を聞いた。まだパナマ運河が米国の統治下だった1960年代、駐留していた米軍兵に、エンペラ族が

チャグレス川の上流域にあるエンペラ族の集落。首都から100kmも離れていないが、都市部とは別世界のようだ



さかぐちとおる

著述家。中南米の大半の国を訪れて取材し、旅行ガイド誌などの編集にも携わる。著書に『キューバ音楽紀行』（東京書籍）、『メキシコアメリカ鉄道の旅』（彩流社）など。公式サイト www.sakaguchi.oru.com

カーニバル



華やかなパレードは、観光客にも大人気だ

毎年2月、華麗な衣装の参加者が繰り広げるにぎやかなパレードとして日本でも知られるカーニバル。ここ、パナマでも、毎年、4日間にわたって繰り広げられる盛大なカーニバルは、地元の人たちの楽しみと同時に、観光の目玉の一つとなっている。

パナマのカーニバルは、金曜日の夜に始まる。各地の地方都市や町では、それぞれ2人の「女王」が戴冠し、火曜日まで毎日、昼と夜の2回、町の大通りの両端からパレードを行う。2人の女王は、それぞれの美しさやドレスの華やかさを競いながら、道の中央に向けて行進するのだ。日曜日には伝統的なドレス「ポリェラ」をまとった女性たちのパレードも行われる。最終日となる火曜日にカーニバルは最高潮を迎え、日付が変わった水曜日の深夜、イワシの「葬式」で幕を閉じる。

カーニバルは、復活祭前約7週間の断食（四旬節）というカトリックのならわしと関連している。キリスト教徒は四旬節には肉とお酒を我慢して節制し、その前日となる火曜日にぜいたくをして食材を食べ切る習慣があった。今日のパナマでも、火曜日には音楽をかけ、派手にカーニバルを祝うが、四旬節が始まる「灰の水曜日」になると一転、町は静けさに包まれ、人々はお酒を絶って平穏に過ごす。



各町で2人の女王が競い合う

写真提供：パナマ観光局
取材協力：パナマ大使館

地球ギャラリー

パナマの文化を 知ろう！

パナマの家庭料理といえば

鶏肉とヤマ芋のスープ

南米の国々の食文化は互いによく似ている。同じような料理でも、入れる具材や料理の手順、付け合わせなどの違いに、その国らしさが表れる。

スペイン語で「煮込む」という意味の「サンコーチョ」もそんな料理の一つ。中南米で広く親しまれているスープで、パナマでは鶏肉とヤマ芋を入れるのが一般的だ。地域によっては、キャッサバやトウモロコシ、ニンジンなどを入れることもある。日本のみそ汁のように、各家庭でもレシピが異なるという。

パナマの人々は、よくお昼時に主食の白米と一緒にサンコーチョを食べる。白米のほかにも、豆やジャガイモ、青いバナナをスライスし、つぶして揚げたものなども主食とされていて、レストランで料理を注文すると、「コン・ケ（一緒に食べる主食は何にしますか？）」と聞かれる。

食欲をそそるニンニクの香りと濃厚な味が特徴のサンコーチョ。お昼のメニューにぜひ加えてみてはいかがだろうか。



【RECIPE】

●材料(8人前)

鶏肉ぶつ切り 1羽分／玉ネギ2個／ニンニク7個／オレガノ 小さじ1杯／コリアンダー6枚／山芋(ヤマ芋の代用) 500g／水3リットル／塩・コショウ適量

- 1 玉ネギ、ニンニク2個、コリアンダーをみじん切りにし、山芋は大きめに切っておく。
- 2 鶏肉に塩・コショウで下味を付け、刻んでおいたニンニク、玉ネギと一緒に肉の表面が白くなるまで炒めたら、水を加えて沸騰させる。
- 3 沸騰したら、みじん切りにしておいたコリアンダーと一緒に、オレガノ、山芋、残りのニンニク5個を入れて弱火で煮込む。ニンニクは切らずにそのまま入れる。
- 4 加熱しすぎて山芋が崩れないよう注意しながら調理し、山芋が柔らかくなったら、塩・コショウでスープの味を調べて出来上がり。